

「法」制定にむけ学習

湯浅研究集会

今年も湯浅で部落解放第44回湯浅研究集会が開催された。

8月16日の全体集會には345人という多くの町民が



講演する奥田均・教授



「福祉と人権の町づくり」報告のようす

いること」と台し、近畿大学の奥田均・教授より記念講演を行っていただき「同対審」答申が示した意義とこれから求められる活動や法整備について分かりやすい切り口でお話しいただきました。

つづいて8月18日に「部落差別と法整備について」19日に「人権と福祉の町

づくり」、22日に「狭山事件53年」というテーマでそれぞれ分科会を開催しました。

分科会では参加された皆さまより積極的なご意見、ご質問が出され研鑽を深めることができました。

最終日のまとめ集會では、各分科会の報告と地区の代表の方が自身の半生

を「私の歩んだ道」と題してお話しいただきました。今年の研究集會も5日間で600人近い参加者の皆さんと部落差別の解消と人権の守

られた地域づくり、狭山の再審勝利を誓い合い、たいへん有意義なものとなりました。(阪井達夫)

姫路で交流会、皮革のまちを視察

共闘交流会

部落解放共闘近畿・九州ブロック第30回交流会が9月2日から3日、姫路キャッスルグランヴィリオ



基調提案する赤井隆史・事務局長

ホテルでひらかれ、和歌山から10人、全体で142人が参加した。近畿ブロックの川原芳和・議長(兵庫)、九州ブロックの佐藤寛人・議長(大分)があいさつし、中央共闘の高橋定・事務局次長、辻芳治・連合兵庫会長、石見利勝・姫路市長から来賓あいさつをうけた。交流会の基調を近畿ブロックの赤井隆史・事務局長、九州ブロックから黒田伸一・福岡県民会議事務局長が活動報告をした。(一)

(一)特別報告では、映画「神戸・番町からの報告」のあと、橋本貴美男・兵庫県連書記長から「兵庫県における部落解放運動の現状」として、303支部2万5千人の同盟員が、現在は202支部約8千人と減少し、都市・農山漁村・離島とあらゆる形態が存在する全国の縮図となっていること、大量差別投書事件をはじめとする差別事件の状況や今後の課題などについて報告された。



原皮

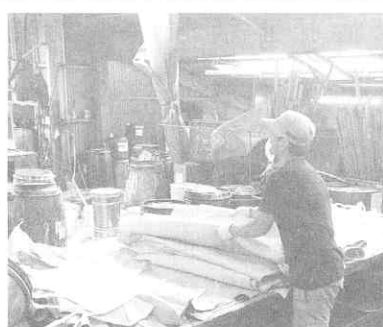


退任あいさつする田上武さん



ドラム

夕食・懇親会では和やかに懇談・交流し、田上武・顧問(和歌山)が22年間近畿ブロックの議長を務めたお礼と今後ともに運動をすすめていこうと決意をあらたに、1日目を終えた。2日目は、姫路市花田(皮革の町)と西市鶴野飛行場・防空壕見学(2班)にわかれてフィールドワークをした。花田町高木地区は、古くから白皮鞣しで知られる皮革の町であり、新田常博製革所で工場見学をした。外国馬の原皮を輸入し、年に4〜5万頭をあつかう。大きなドラムで塩漬けされた原皮を水洗いし、石灰に漬けて皮をふくらま



作業のようす

せて毛をとばす。その後、なめしやシェービングなどさまざまな行程を経てすべての品質検査をおこない、計量して梱包・発送され各地で製品となる。馬の革は軽く丈夫で、ハンドバッグやベルト、靴などの製品は、レザーフェアなどで受賞する高品質は製品を生んでいる。つづいて視察した皮革商品のアンテナショップ「ポケットパーク花田」では、革製品の販売やレザースクールを開催するなど、皮革産業の活性化に尽力していることが伝えられた。

連載(2) 没後50年

解放の父 松本治一郎を偲んで

本年11月22日に没後50年を迎える「松本治一郎」の連載2回目。

松本治一郎の生きざまとどうかその正義感と広い情愛は、彼の少年時代からの体験からきていると思われる。

治一郎が12歳の時、村の貧しい家の娘が家を助けるため遊郭に売られ、その過酷なひびに耐え切れず逃げ帰ってきた。なんとかして助けた親や村人と連れ帰ろうとする警察官との間に騒動が起きた。結果、治一郎と父をはじめ多数の村人が連行され、少女も警察に連れ去られた。

腕白少年だった治一郎が差別と貧困、世の中の不条理を肌で感じ、反権力の意識が見栄えたときであった。その3カ月後、さしたる目的もないが、姉だけに伝えて家出同然に中国大陸に渡った。この頃、多くの青年たちは「大陸浪人」に憧れ放浪しているが、治一郎もそうした一人だったのかも…。

晩年、治一郎は「本を捨てた。何事も自分で切り拓いていく以外、頼るものはない」とその時の心境を語っている。

高等小学校をでて3年

(以下次号へ)